

# 地域医療連携ニュース

## 地域医療機関の皆さまに、がん連携の現状と課題について伺いました。

地域医療連携室に、ご支援・ご協力をいただきありがとうございます。

各がん診療拠点病院では、平成23年度からのがん連携パスの運用に向けて、さまざまな取り組みが行われています。当室でも、がん地域医療連携の現状を明らかにするために、地域医療機関を対象としたアンケート調査を行いました。その結果について、ご報告いたします。

### I 調査目的

5大がん連携パスの運用に先駆け、当院と近隣の医療機関におけるがん連携の現状と課題を明らかにする。

### II 調査対象

当院に紹介・逆紹介のある横手地区・仙北地区・雄勝地区の医療機関の医師 63名

( 小児科・産婦人科・整形外科・皮膚科・耳鼻咽喉科・精神科等の単科を除く )

回答者 38名 ( 回答率 60%)

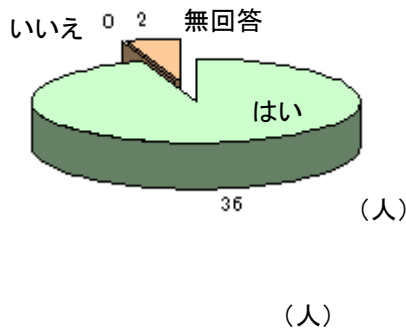
内訳 … 病院医師 5名 医院・クリニック・診療所医師 33名

### III 調査機関

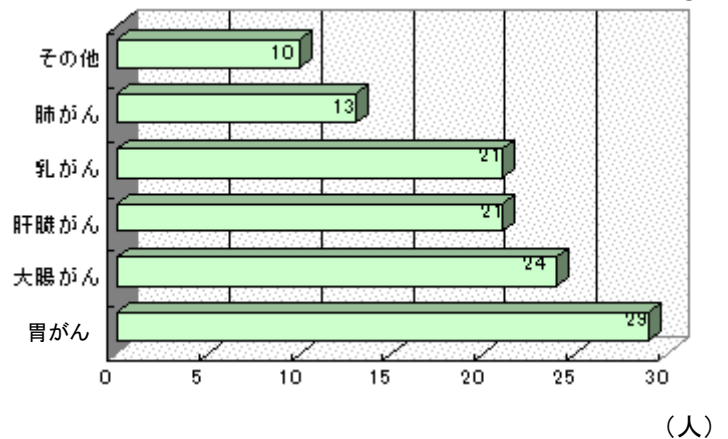
平成22年5月28日～平成22年6月7日

### IV 結果

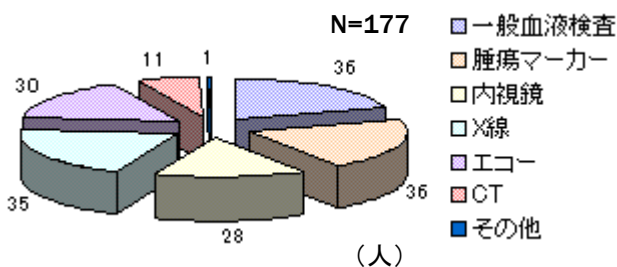
#### 1. がん診断の有無 N=38



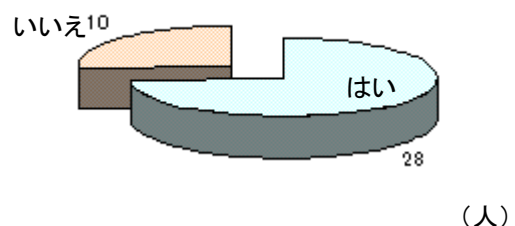
#### 2. 診断したがんの種類 (複数回答) N=118



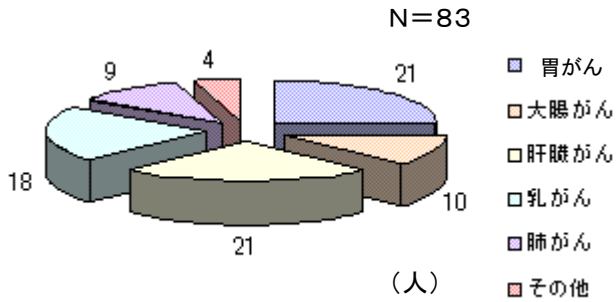
#### 3. 検査・診断可能な項目 (複数回答) N=177



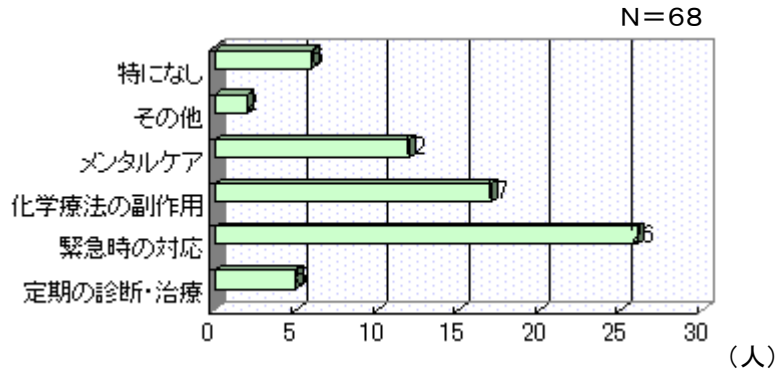
#### 4. がん患者さんの逆紹介の有無 N=38



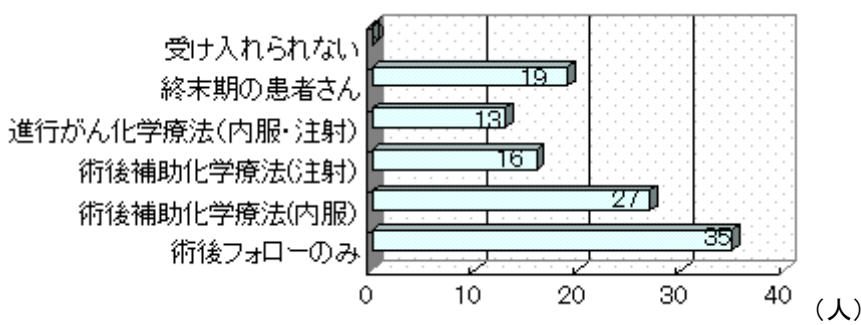
5. 逆紹介されたがんの種類 (複数回答) N=83



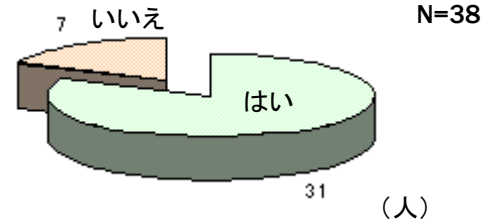
7. 逆紹介を受ける際の不安内容 (複数回答) N=68



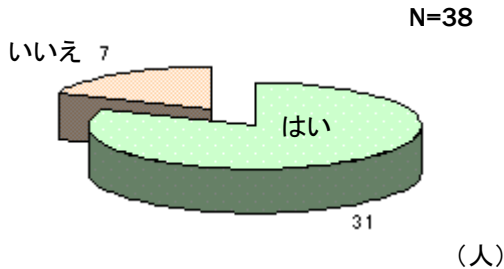
6. 逆紹介が可能ながんの状態 (複数回答) N=110



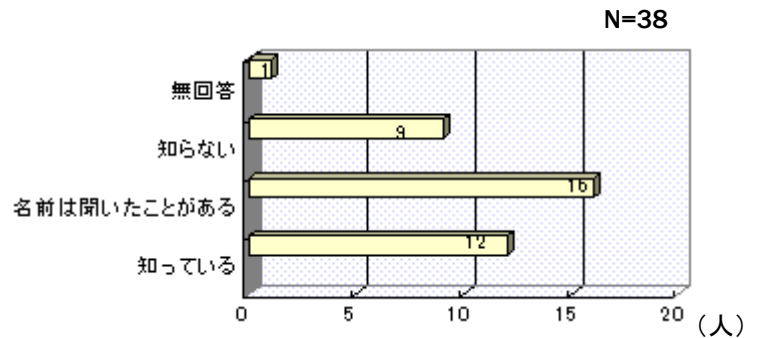
8. 在宅医療・往診の有無 N=38



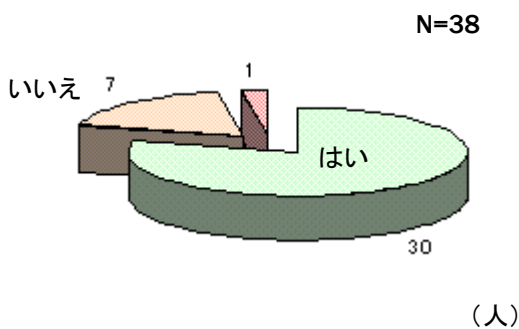
9. 在宅での看取りの有無 N=38



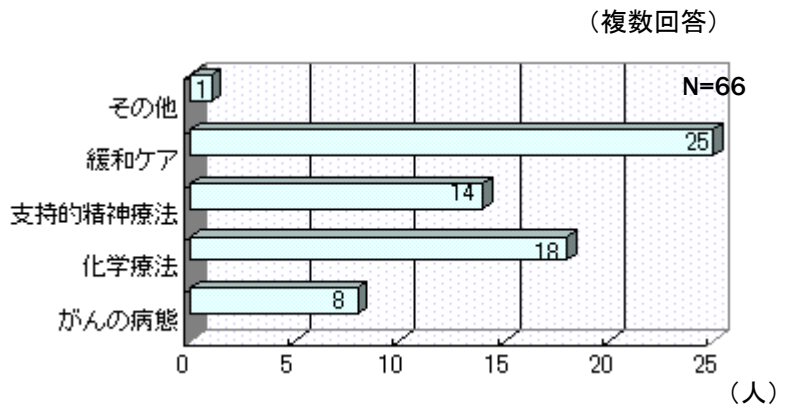
10. がん連携パスに関する周知状況 N=38



11. がん連携パスの研修会への参加の有無 N=38



12. がん連携セミナーに興味のあるテーマ (複数回答) N=66



### 13. がん医療連携に対するご意見（記述式）

1. 病診連携のみならず、病病連携を含むパスの構築が必要。
2. 現在、昼休みなしで往診、老人ホーム、他病院の手伝い等があり、これ以上の引き受けは無理です。
3. がん化学療法、支持的精神療法、緩和ケアなど、初歩から系統的に教えてもらいたい。
4. 定期的な（連携機関と病院との間で）集まり（講習会等を含めた）をもっと（互いに顔の見える一病院の医師と連携医との間で）関係をもちたい。
5. 必要だとは思いますが、今のところ、そこまで手がまわらないのが現実です。将来的には、考えていたきたいと存じます。
6. 開業医として早期発見に、これまで通り努力したいと思います。在宅、往診は、時間的に余裕がなく、難しい状況です。
7. がん難民を増やさぬために、ぜひ必要です。
8. パスを診療情報提供書として、県に暗黙の了解を得るとスムーズに進むと思います。  
（千葉県では、DM連携パスを診療情報提供書として使用することを黙認する了解を得ているとのことです。）
9. 古い人間ですので、勉強会でのグループディスカッションやロールプレイは、苦手です。  
勉強会、講習会、研修会では、はずして頂きたい。
10. ご苦労様です。私共も、できるだけ協力させていただきます。
11. 前立腺癌と術後の膀胱癌・腎癌なら対応は可能です。
12. 現在、がん患者さんの病院集中が顕著な状態で、病診連携を推し進めるとなると、よほどの患者さん、一般住民への説明が必要であろうと思う。
13. 脳腫瘍のIVH管理の患者さんを約8ヶ月、在宅でフォローさせてもらいましたが、在宅IVHのケースでは、閉塞や感染の少ないグローションカテ、もしくは、埋め込み式タイプにしていただければ幸いです。

#### 今後のがん地域医療連携に向けて

平鹿総合病院地域医療連携室 室長 高橋 俊明

日頃より、当室に対し、ご支援・ご協力をいただきありがとうございます。

また、この度のアンケート調査に対しても、多くの先生方にご協力をいただきましたことを心より感謝いたします。

がん地域医療連携パスの運用に向けて、まだまだ、乗り越えなければならないハードルは少なくありませんが、地域の先生方のがん診療に対する意識が高いことを知り、当室として、大変心強く思っております。

今後、がん連携に関しましては、地域住民の方々のご理解やご協力はもちろんのこと、保健・医療・福祉機関、地域が一体となった取り組みが必要となります。限られた医療資源をどのような活用したら、がん患者さんに安心した療養生活が提供できるのか、皆様と共に、新たな地域連携のあり方について検討いたしたいと思っております。

今後とも、宜しくお願いいたします。